

魚

丸石の浜から
海草の揺れる浅い湾へと
男と女が船を出した

白髪の女は
針のついた糸をおろし
三十年前に落とした骨の
残骸をさがす

夫を裏切って
流産した娘の小さな包みを

もの言わぬ若い男は
砂底を網で引きずって
ごつごつの石が

誰にもひきあげられていないかを確認する

五週間前に彼が沈めた
女房のきれいな足首にくくりつけた石を

釣りあげられた黒と白の縞（しま）の魚は
空中で喘（あえ）ぐとき
罪をひときれ吐きだしながら
おんなの皺（しわ）だらけの掌から
同じくらいの悲嘆を
こそぎとっていく

かれの虹色の鱗（うろこ）のさかなは
喜びに口笛を吹きながら
男のこけた頬から
歪んだ欲望をもうひとかけら
かじり取る

町のにんげんが魚を買う
もぐもぐ食べては

身をふとらせる